

創造活動事業（教育支援センター〔適応指導教室〕）

1 活動の概要

(1) 活動のねらい

不登校等の児童生徒を対象に、学校復帰し自立できることを目的とし、個々の児童生徒の興味・関心を行動に移し、自らが活動する過程で成長がはかれるように、必要な援助を組織的・継続的に行うことをねらいとする。

(2) 活動内容

- 1) 不登校等の児童生徒に関する、保護者や教職員への相談援助活動
- 2) 学生カウンセラーによる、不登校児童生徒の家庭訪問を主とした訪問援助活動
- 3) 多様なプログラムを設け、児童生徒の興味関心を行動に移し、心の充足や体験の積み上げにより、成長をはかる自主創造活動
- 4) 不登校児童生徒に関する、学校や関係機関との連絡調整
- 5) 長期欠席児童生徒に関する、調査研究

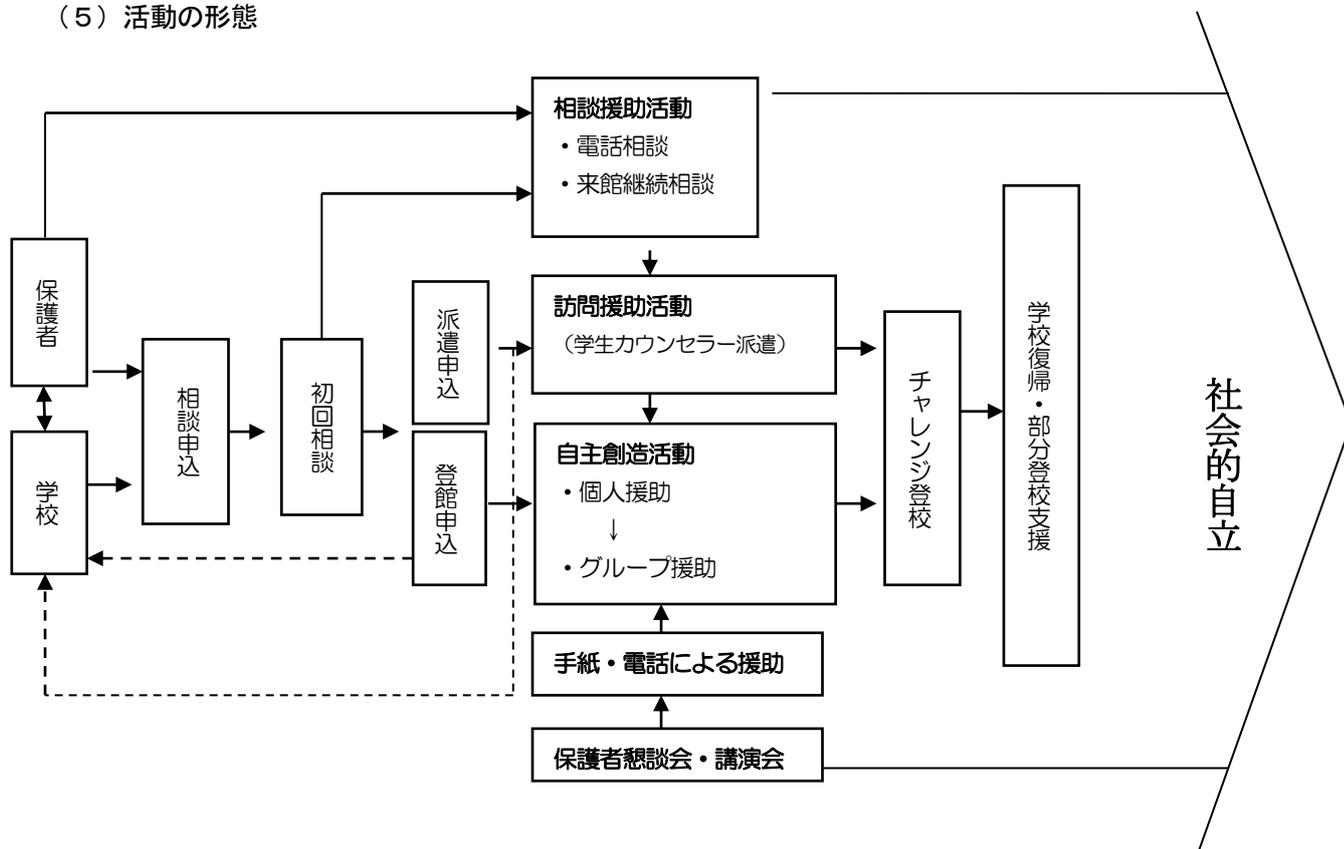
(3) 活動時間（週単位）

- 1) 相談援助活動＝火曜日～日曜日（9時～17時） *教職員の相談 随時
- 2) 訪問援助活動＝年間をとおして随時
- 3) 自主創造活動＝火・木曜日（10時～12時）水・金曜日（10時～15時）
土曜日（10時～15時）活動（個人援助）あり
- 4) 連絡調整＝年間をとおして随時
- 5) 調査研究＝年間をとおして随時

(4) 対 象

不登校等状態にあり、学校だけで状態の改善を図ることが難しい市内在住の小中学生とする。

(5) 活動の形態



2 活動状況

昨年度までは千里少年文化館・庄内少年文化館の二館体制でやっていたが、今年度からは庄内少年文化館で個人・グループ援助等のすべての援助を行った。

創造活動のねらいである「児童生徒一人一人の個に応じた成長」を促すとともに、体験活動をとおり社会的に自立できる力（生活の自立・集団への適応）を育てるために、次の事項に取り組んだ。

- ・個に応じた指導援助
- ・全体プログラムの多様化
- ・館外活動の内容の充実
- ・宿泊体験活動（日帰り体験活動）
- ・学校との緊密な連携
- ・児童生徒の状況に応じた学校復帰
- ・保護者への啓発活動
- ・保護者、教職員との継続相談
- ・ケース検討会とケース報告会の実施
- ・「寄り添い型学習」との連携

(1) 相談援助活動

不登校等の態様や要因が多様化している現状を踏まえ、相談援助活動を一層重視して取り組んだ。

- 1) 初回面接相談…市内在住の小中学生の保護者や小中学校の依頼により面接相談を実施した。
- 2) 受け入れ…保護者面接を行い、本人の意向を踏まえ、児童生徒の状況に適した対応を検討（受理会議）し、週あたりの登館回数・援助の形態など受け入れ方法を決めた。
- 3) 継続相談…児童生徒が、ただちに登館しての活動や訪問援助に応じられない場合は、保護者との継続相談により援助方法の検討等を行なった。

(2) 訪問援助活動（学生カウンセラー）

学生カウンセラーの活動は、家庭訪問をして、児童生徒の遊び相手や話し相手になり、心のふれあいを深める中で、安定した人間関係が構築できるように援助を行うことである。家庭の都合や児童生徒が家以外の場所での活動が可能な場合には、活動場所が少年文化館になることもあった。

学生カウンセラーは、学業などの都合を考慮しながら、まずは、週1回来館して児童生徒の自主創造活動に参加し、児童生徒たちとの関係づくりを経験した後、保護者や本人の訪問要請に応じて、順次家庭訪問援助に移行した。

訪問援助活動の学生カウンセラーの派遣状況

開始月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
派遣人数	2人	2人	2人	3人	3人	3人	
対象 児童生徒	小3男 中2女	小3男 中2女	小3男 中2女	小3男 中2女 中1男	小3男 中2女 中1男	小3男 中2女 中1男	
							合 計
開始月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(のべ)
派遣人数	6人	6人	7人	9人	9人	9人	61人
対象 児童生徒	小3男 中2女 中2女 中1男 中1男 中2男	小3男 中2女 中2女 中1男 中1男 中2男	小3男 小3女 中1男 中1男 中2男 中2女 中2女	小2男 小3男 小3女 小6男 中1男 中1男 中2男 中2女 中2女 中2女	小2男 小3男 小3女 小6男 中1男 中1男 中2男 中2女 中2女 中2女	小2男 小3男 小3女 小6男 中1男 中1男 中2男 中2女 中2女 中2女	

*今年度訪問援助で、のべ61人の児童を支援した。

定期的に、学生カウンセラー研修会を実施し、教育現場・相談機関・医療機関等の講師や創造活動担当職員が指導した。また、学生カウンセラー相互の活動報告をとおして、不登校等の児童生徒に対する理解を深めるとともに、援助活動がより有効なものとなるよう努めた。

学生カウンセラー研修会実施一覧

月 日	内 容	講 師 ・ 報 告 者	学生 参加者数 (人)
4/10(土)	委嘱状交付/活動の概要について	豊中市立少年文化館職員 豊中市立少年文化館アドバイザー ／臨床心理士・公認心理師	5
6/5(土)	子どもの心の理解と対応について	豊中市立少年文化館アドバイザー ／臨床心理士・公認心理師	10
9/4(土)	専門機関からの報告	こども心身医療研究所 臨床心理士	14
10/9(土)	情報交換会①	豊中市立少年文化館アドバイザー ／臨床心理士・公認心理師	8
1/15(土)	子ども理解のためのワークショップ	豊中市立少年文化館アドバイザー ／臨床心理士・公認心理師	10
3/5(土)	情報交換会②	豊中市立少年文化館アドバイザー ／臨床心理士・公認心理師	10

(3) 自主創造活動（登館援助活動）

個々の児童生徒の不登校状況を分析し、時間・空間・仲間の三間を準備する中で、個々の児童生徒の興味関心を行動に移し、自らが進んで活動できるように援助を行った。

- 1) 個人援助…登館当初やグループになじみにくい児童生徒については、スタッフとの1対1の個人援助から始め、徐々に信頼関係を深めながら、本人の状況を見計らってグループによる全体プログラム活動に移行した。
- 2) 自主プログラム…興味関心のある活動を自分で計画し、スタッフと相談の上実行した。（テスト受験、学校課題の制作など）
- 3) 全体プログラム…実体験や仲間とともに活動する事を目標にしたプログラムを設定した。専門の指導員がプログラムを担当し、スタッフや学生カウンセラーも加わりともに活動した。

<プログラム>

朝の集い	<p>毎朝 10 時までにはプログラム活動に入る児童生徒が一室に集まり、週の予定と振り返りを書いた。この作業を習慣化することで、生活習慣への意識がついた。また、雑談をする、スタッフや指導員、学生カウンセラーとカードゲームを楽しむなど、よいコミュニケーションの場にもなった。また、スタッフと活動の振り返りをする場としても活用することができた。活動をする前のウォーミングアップとしてよい時間となった。</p>
一週間のプラン作り	<p>その週に初めて登館した日には、一週間の自分の生活を見通す意味で、活動記録に予定を書き込んだ。すでに過ぎた日については実際に家庭や学校でしたことを記入した。また、スタッフとともに登校や登館のプランニングをすることもでき、一週間の動きを児童生徒や保護者、スタッフ、学校が視覚的に共有することに役立った。2～3 日前のことや起床、就寝時間を思い出せない場合もあるが、自分の生活を確かめる時間を持つことで日々の生活や基本的生活習慣の意識づけにつなげることができ、よかった。</p>
リズムで遊ぼう	<p>ボーカロイド曲や話題の曲など、児童生徒たちのリクエスト曲も取り上げ、親しみやすい活動をおこなった。木琴や鉄琴、キーボードやドラムなど各々が弾きたい楽器を選び、ゆったりした時間の中でそれぞれのペースで演奏もした。会話も楽しみながら和やかに活動し、最後にはみんなで音を合わせ、セッションすることを目指した。</p>
クッキング	<p>小・中学生合わせて 11 人が参加。今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、調理が出来ない時は食品サンプル作りやレシピ作り、鍋つかみ作りをした。実質調理は年間 7 回行い、ラタトゥイユ・鶏のから揚げ・オムライス・サツマイモ尽くしメニュー・グラタン・豆腐ハンバーグなど生活を学ぼうで育てた野菜を使って自給自足を体験した。互いに教え合い、協力しあう場面が多く見られた。会話ができないので、表情やジェスチャーで美味しいと伝えあって会食を楽しんでいた。</p>
生活を学ぼう	<p>農園作業では、昨年度植えた玉ねぎの収穫後、サツマイモの植え付けをした。草抜きや途中観察しながら収穫までを体験した。また竹や小枝、藁、ドングリを使った手作りの季節飾りやおもちゃ作り、身近にある材料を使い伝承おもちゃを作ってみんなで遊びを楽しんだ。小刀を使って箸づくりやしめ縄など実際家で使える物作りは互いに教え合い、会話も楽しみ貴重な経験となった。</p>
つくってみよう	<p>小学生は、紙粘土のお面作り、割りばしパチンコ、色画用紙を使いゆかいな帽子を作った。7 月には季節を感じながら七夕飾りや切り紙作りを楽しんだ。陶芸に取り組み土を練ることから始めて、形にとらわれることなく自由に作ることの楽しさを感じていた。</p> <p>中学生はたい焼きマグネットを紙粘土で丁寧を作り、リアルな作品ができあがった。2 学期から陶芸に取り組んだ。土練りだけでなく、固まった釉薬を混ぜる作業など、難しい作業にも集中して、平皿や埴輪など個性豊かな作品ができあがった。</p> <p>3 学期は小中学生全員で共同制作に取り組んだ。また、風の強い日には活動で作った凧を屋上で揚げて、大いに走り回った。児童生徒同士が助け合い、会話をしながら仲間との活動を十分に楽しんだ。</p>
体を動かそう	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、距離をとるように工夫してゲーム性のあるものをたくさん取り入れた。ウォーミングアップではボールのタオルキャッチやフラフープを使ってのスリッパ飛ばし、ボール転がしゲームを、メインゲームではポッチャ、風船バレー、ドッチビーパスゲーム、ポートボールなど、チームで戦ったり、相手を意識してラリーを続けるなどの活動を取り入れた。</p> <p>館外では豊島体育館や庄内体育館を使用し、広いスペースでファミリーバドミントン、フラバールバレーボール、ポートボール、トランポリン、バスケットボール、キンボールなどをした。体を動かし気持ち良く汗を流して、児童生徒同士声を掛け合う姿が見られた。</p>
やすらぎタイム	<p>8 月にははじめての試みとして、南消防署で人命救助や放水の体験をした。仲間で助け合いながら取り組む子どもたちの姿が見られた。</p> <p>9 月にはみんなですごろく作りに取り組んだ。すごろくの項目も自分たちで考え、オリジナルなすごろくが出来上がった。</p> <p>SST（ソーシャルスキルトレーニング）のワークを年間 7 回実施した。子どもたちそれ</p>

	<p>それが意見を言い合う場面も見られ、真面目に向き合い、取り組む子どもたちの姿が見られた。</p> <p>年3回実施した語り部タイムでは、客船で働かれていた経験のある先生から、外国の興味深いお話をきいた。熱心に話をきく子どもたちの姿が見られた。</p> <p>乗馬体験も年間6回実施した。</p> <p>3学期末には、お世話になった指導員の先生方と学生カウンセラーへのプレゼント、メッセージカードを協力して作った。</p>
茶道	<p>今年度は全6回実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第2回(9月24日)までは飲食を伴わない形で実施した。内容は、茶道の歴史や茶道具に関する講話や説明、またはふくささばきやお点前のシミュレーションなど。</p> <p>第3回(10月15日)以降は飲食を伴う活動を実施。お点前は一度に3人ずつ行い、残りの子どもはお客様役・待機組と役割を決め、順番に活動した。和室で密にならないようにするため、子どもの待機場所として学習室を使用した。普段は体験できないような活動内容で、子どもたちは興味をもって取り組んだ。</p>
学習	<p>(小学生)児童生徒の興味のある話をしてから、個に応じた学習を行った。子どもが持参した学習プリントを中心に、漢字や算数に取り組み、英語も、発音の上手な子どもをお手本に読む練習をした。3学期は余った時間で工作も行い、休憩時間は多目的ホールで身体を動かしたり、バランスボールで遊んだりした。学習と休憩を切り替えてメリハリのある取り組みができた。</p> <p>(中学生)火曜日と水曜日、毎週木曜日に学習に取り組んだ。水曜日の学習では、ビートルズの『Let It Be』などの洋楽の歌詞を聞き取ったり、英単語の神経衰弱カードゲームなどをした。火曜日、木曜日の学習では、それぞれが持参した教材を中心に、少年文化館にある教材も利用しながら、各自の進度に合わせた学習を進めていった。休憩時間はカードゲームや卓球などで気分転換を行い、落ち着いて活動に取り組むことができた。</p>
フリープラン	<p>今年度は実施なし。</p>
アレンジメント フラワー	<p>各学期に1回の年3回、フラワーアレンジメントを行った。ペットボトル、ハンガー、和紙や色画用紙などで花器を作った。今年度も農園で育てた花を自分で選んで摘み活けた。色遣いや形を工夫するなど個性が現れていた。自分の誕生花と花言葉を教えてもらって自分のことを知るよい機会にもなった。家に持ち帰って家族にプレゼントしたり、花をめで癒される時間を持つことができた。</p>

自主創造活動プログラム

時刻	曜日		火	水	木	金	土	
9:30	プログラム		朝の集い	朝の集い	朝の集い	朝の集い		
10:00	午前の部	全体プログラム	1週間のプラン作り リズムで遊ぼう (第1・3・5) 学習 (第2・4)	1週間のプラン作り クッキング (第1・3・5) 生活を学ぼう (第2・4)	1週間のプラン作り (小)つくってみよう (中)学習	1週間のプラン作り 体を動かそう (含館外体育) 館外活動	個人援助	
		自主プログラム	興味関心のある活動を、自分で計画して実行する。					
		個人援助	来館後、日の浅い場合やグループに入れない場合、個人的に援助する。					
12:00			H・R	(H・R) 昼食	(H・R) 昼食	(H・R) 昼食		
13:00	午後の部	全体プログラム		(小)学習 (中)つくってみよう (第1・3) (中)学習 (第2・4) フラワーアレンジメント (第5)	フリープラン	やすらぎタイム ・フリートーク ・茶道 ・館外活動 (含乗馬センター) ・マイプラン ・奉仕活動 ・SST (ソーシャルスキルトレーニング)	個人援助	
		自主プログラム	興味関心のある活動を、自分で計画して実行する。					
		個人援助	来館後、日の浅い場合やグループに入れない場合、個人的に援助する。					
15:00				H・R		H・R		

創造活動指導員連絡会実施一覧

月/日	案 件	協 議 内 容	参加者数
4/8	創造活動の指導方針について	指導依頼および児童生徒を指導するにあたっての共通認識	8人
10/19	指導の現状・交流	2学期状況報告と情報交換	8人
3/8	令和3年度の反省	指導内容の反省と次年度の課題など	10人

4) 館外活動

体験活動を含む社会見学や宿泊体験・冬山ハイキングなどを通じて楽しく遊び、語り合い、美しいものに感動するような社会的体験をめざすことを目的としている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されたため6月4日、9月10日の館外活動は中止になった。密を避けて公共交通機関を使用せずマイクロバスを利用した。

日帰り体験活動では、自分の役割を意識し、他者との語らいをとおして人間関係の結び方を学び、仲間同士やスタッフとの信頼関係を一層深めることができた。それは仲間とともに過ごす楽しさを十分味わえただけでなく、自主性を養うよい機会でもあった。自ら体を動かす充実感、自然に親しみ物事に感動できる心のゆとり、人間関係の結び方などを学ぶ館外活動や体験活動となるよう、これからもめざしていきたい。

館外活動実施一覧

月	日	曜	行 き 先	人数	内 容
6	4	金	緊急事態宣言発令のため中止		
9	10	金	緊急事態宣言発令のため中止		
10	1	金	万博自然文化園（ソラード他）	7人	体験・見学
11	5	金	交流会	11人	交流
11	12	金	豊中市立少年自然の家わっぱる	8人	体験
1	14	金	中山寺・米谷高原冬山ハイキング	9人	ハイキング

〔1〕 日帰り体験活動の取組み（豊中市立青少年自然の家わっぱる 能勢）参加者数 8人

11月12日（金）例年、1泊2日の宿泊体験活動を行っていたが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日帰り体験のみの活動になった。

朝起きるリズムが不安定な子どもも、野外での炊飯や自然の中でのオリエンテーリングを体験してみたいと、当日に合わせて体調を整え参加することができた。

自然の家わっぱるに到着後、全員で協力しながら荷物を運び、炊事場で施設スタッフの説明を聞いた後、野外炊飯を始めた。薪班と食材班に分かれ、皆、てきぱきと野菜を切り、煙と戦いながら協力してやきそばを作った。みんなで作ったやきそばがこんなにおいしいと思わなかったと感動していた。片づけでは、冷たい水で鉄板についたすすがきれいにとれるまで磨き、炭の始末もすすだらけになりながら、全員一生懸命動いていた。関所ハイキングでは、スタート地点まで登った後、取水タンクのスタート地点から2グループに分かれ、6か所の関所で課題をクリアした。また、チームで協力し課題を一つ一つクリアすることで仲間意識も高まった。

自然を感じながら、仲間と一緒に過ごす楽しさや良さを味わい児童生徒たちは元気や自信をつけて帰ってきた。

〔2〕動物とふれあう活動の取組み

服部緑地乗馬センターにて、年6回の乗馬体験活動を実施した。参加者数は延べ14人となった。はじめは大きな馬を前にして緊張した表情だった児童生徒も、乗馬センターの職員の方々が馬に関する話を丁寧にわかりやすくしてくださったことで、馬への興味も深まり、表情が徐々に和らいでいった。実際に馬に触れてみたり、人参をあげてみたりと直接馬と交流でき、回数を経るにしたがって、乗馬体験を楽しみにする児童生徒も多くなった。馬に乗ることは、児童生徒たちにとって、日常では味わえない大きな魅力ある体験となった。参加回数に応じて、少しずつレベルアップしていった。館内での活動では「順番を待つ」という機会はあまりないが、乗馬体験では自分の番が回ってくるまで、他の児童生徒たちが馬に乗るのを励ましたりしながら、自分の番が回ってくるのを待っていた。また、馬のやさしい瞳や豊かなしぐさ、そっとふれてみたときのやさしいぬくもりは、心のやすらぎを与えてくれたようだ。1月の最終回では、当日の参加者がスタッフの方にお礼の手紙とことばで、今年度の乗馬体験活動を締めくくった。

令和3年度（2022年度）乗馬センター参加者 登校率

	参加人数	復帰人数	部分登校人数	登校率
計	14人	0人	12人	85.7%

5) 特別プログラム

ほっこりホームデイ	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
始まりの会・終わりの会	<p>学期ごとに児童生徒の気持ちの節目として、学校の始まる始業式、終業式より早い時期に、始まりの会、終わりの会を行った。</p> <p>2学期の始まりの会では、児童生徒たちそれぞれの夏休みの振り返りや目標を作文に書き、久々に会う仲間とレクリエーションをして和んだ。3学期の始まりの会では、今年の抱負や目標、好きな言葉を『書き初め』にして、学期をスタートしていくための心と体の準備を確認し合った。</p> <p>各学期の終わりの会ではその学期の活動や生活を作文で振り返り、面談も行った。レクリエーションは、時間的には短かったが密を避けつつ、楽しく交流して仲間意識が高まった。少年文化館終了後の登校や長期休暇の過ごし方について、自分と向き合う機会になった。</p>
こども園体験活動	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
茶話会	<p>今年度は活動日が違う児童生徒との交流のできた茶話会となった。活動をともにした仲間たちとカードゲームや終了式の準備をして楽しい時間を過ごした。</p> <p>当日、バス、自転車、徒歩と自力での登館と公用車登館することができた。始まりの挨拶をしてから自己紹介した後、作文、終了式に渡すプレゼントのラッピング、終了式の準備、飾り作りに分かち作業をしてくれた。児童生徒たちが自主的に動き、思い思いに壁面装飾をしていた。その間、活動の振り返り作文をもとに一年のまとめや次のステップについてスタッフと話し合った。その後、多目的ホールへ全員が集合し、大縄跳びが始まった。参加する児童生徒が一人二人と増え、見ていた児童生徒も一緒になって声を出していた。レクリエーションでは、文化館クイズが用意されていた。普段見慣れた景色も改めて聞かれると、考えながら一生懸命思い出していた。</p> <p>少年文化館で過ごした日々を思い、感慨にふける児童生徒もいた。少年文化館の活動をとおして、時間と空間を共有し“人とつながる”喜びや温かさ、心地よさを感じ、安心できる居場所となったようだ。みんなの気持ちが通じあい、温かく楽しい貴重な時間が過ごせた。</p>
終了式	<p>3月4日(金)10時より行った。仲間や支えてくれた人々総勢57人(児童生徒16人、保護者8人、少年文化館職員12人、指導員11人、学生カウンセラー10人)とともに、一年間を締めくくり、新たな出発を励ます終了式となった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校関係者は招待せずに行った。児童生徒たちに、職員からメッセージカードと記念品を贈った。式場への出席が厳しい児童生徒は、隣室の美術工芸室で参加し受け取ることができた。児童生徒たちから指導員と学生へメッセージカードとともに、それぞれが描いたプラバンのストラップを児童生徒の感謝の気持ちを届けることができた。児童生徒たちのメッセージでは「人に言葉で伝えるのは難しいですが、少しずつでも出来れば良いと思っています。高校生になったら今までと違う自分に挑戦します」「文化館で心に残っているのは、すぐに友だちが出来て嬉しかったこと。先生方は優しく面白いので文化館に行くのがたのしみでした」「とても楽しく中学生を過ごすことが出来ました。それは、みんなや文化館の先生方や親のお陰だと思います。ありがとうございます。今、自分がすべきこと、考えなければいけないことを考えられるような心のゆとりを作ってくださいありがとうございます」と自分を振り返り、前向きな思いや、感謝の気持ちのメッセージがいくつもあった。他に</p>

も楽しかったプログラム活動のようすを振り返った感想や、仲間と結びついた喜び、活動の中で積極的に変化していった自分のこと、今までの自分と今後の自分を見つめたことなどが書かれていた。それぞれの葛藤のようす、安心できる場所・人が見つけられた喜び、登校や進学への決意が綴られており、出席者の心に深く響いた。少年文化館で仲間や、指導員、学生カウンセラー、スタッフと出会うことで、時間はかかっても少しずつ成長する児童生徒たちの姿が感じられた。参加したみんなが気持ちを共有し、心温まる感動的な式に出席することで節目を確認した。児童生徒たちは仲間やスタッフとの別れを惜しみ、次のステップに向け、児童生徒たちへの大きな励みの機会となった。

(4) チャレンジ登校

- [ねらい] 社会的自立のはじめの一步として登校援助を位置づける。
創造活動での援助が定着し、スタッフとの人間関係が成立したときに、学校でより開かれた人間関係の場やさまざまな行事を経験させる。
- [条件整備] 本人の意向を確認し、学校との連絡を密にして個に応じた受け入れ体制の配慮や働きかけを要請し、保護者の理解と協力を得ながら取り組んだ。
- [確認ポイント] ①場所：校内適応指導教室、保健室、相談室、教室、体育館、校長室など
②時間：放課後、授業中、早朝
③人：キーパーソンを誰にするか。校長、担任、養護教諭、不登校担当者など
④内容：提出物登校、行事登校、別室登校、テスト登校など
- [事例] ・課題提出のために登校した。
・テスト登校（定期テストの受験を学校の別室で受ける）した。
・始業式、終業（修了）式、卒業式に出席した。
・修学旅行（日帰り体験行事）、林間学舎などの行事登校をした。
・興味のある授業に出席した。
・タブレットでの授業に参加した。
・別室へ登校し、担任、その他の先生・職員とつながることができた。
・高校入試の願書を作成するために登校した。
- [成果] 進路のことに関心を持つことにより、テスト登校や、式などに参加できて、学校に対するイメージが変化する児童生徒も見られた。チャレンジ登校をする中で登校や学校に対する意識が変化することもあった。さまざまな行事に参加・見学することにより、学校への意識を持ち、先生・職員とつながることができた。また、学校との連携により、別室での活動内容や児童生徒のようすについての交流を行うことができた。

(5) ケース検討会・ケース報告会

- ・ケース検討会は保護者から相談を受けた児童生徒のうち、個人援助・グループ援助をおこなっているものを対象に実施した。今年度は、7回・14人の児童生徒について検討した。
- ・専門のアドバイザー(臨床心理士)の指導を受けながら、児童生徒の特徴・背景をより深く理解し、適切な指導・援助を行えるように実施した。
- ・初回相談後に援助形態の変更や緊急対応が必要なケースについては随時、スタッフ会議等で確認しながら進めていった。全ケースの課題と現状確認は月1回の定例ケース報告会で把握するようにした。
- ・検討・報告結果にもとづいて、児童生徒への援助、保護者への連絡や個人懇談、学校との連携・相談等が適切に行われるように努めた。

(6) 学校・関係機関との連携

1) 学校との連携

- ・援助や指導の経過の中で、個々の児童生徒の成長に応じて学校と連携し、再登校に向け、段階的な援助を行った。
- ・登館している児童生徒については、月毎に登館日数を学校に送付し、学校が児童生徒の少年文化館での活動状況を理解し、よりよく指導できるように配慮した。

2) 不登校支援研修

目 的 不登校児童生徒への対応等について、市教職員研修の一環として、教職員の資質の向上をめざして研修会を実施する。

第1回	日 時 5月20日(木) 14時30分～16時30分 会 場 庄内少年文化館 (ZOOM 開催) 研修会テーマ 「不登校児童生徒の支援をすすめるために ～学校と文化館との協働～」 (講演) 講 師 大阪府チーフスクールカウンセラー／豊中市立少年文化館 アドバイザー 参加者数 55人
第2回	日 時 7月9日(金) 14時30分～16時15分 会 場 庄内少年文化館 研修会テーマ 「キャリアブリッジの実際の取り組みから考える子ども・若者の継続的伴走」 (講演) 講 師 一般社団法人キャリアブジ理事 参加者数 36人

3) 不登校担当者連絡会

①目的 各小中学校において設置されている「いじめ不登校対策委員会」をより活性化し、不登校および長期欠席傾向を示す児童生徒に対して、全教職員が組織として支援できるようなチーム支援体制の構築と小中学校間の取組みの段差を解消する目的で、平成20年度(2008年度)より「不登校担当者連絡会」を設置している。

- ②構成 各中学校不登校担当者、いじめ・不登校（長期欠席）・児童虐待対策連絡会議（児童生徒課生徒指導係が事務局を担当）で構成され、会長1人、副会長1人を置く。
- ③内容 今年度は年間6回実施。

第1回	開催日：5月20日（木） 会 場：庄内少年文化館（Zoomを活用したオンライン形式） 内 容：①講演 ②本会の趣旨説明 会長及び副会長の選出 不登校担当者への事務連絡について
第2回	開催日：6月17日（木） 会 場：庄内少年文化館（Zoomを活用したオンライン形式） 内 容：会長あいさつ 校内適応教室の紹介 グループ交流・全体交流
第3回	開催日：7月9日（金） 会 場：庄内少年文化館 内 容：不登校支援研修② 情報交流
第4回	開催日：10月29日（金） 会 場：学校法人代々木学園高等学校 大阪校 内 容：視察 学校概要・施設見学
第5回	開催日：12月8日（水） 会 場：庄内少年文化館 内 容：中学校事例紹介・説明
第6回	開催日：1月27日（木） 会 場：庄内少年文化館 内 容：連絡会

(7) 啓発活動

○保護者講演会

- ①目的 子どもの不安な状態を知り、今後の子どもへの対応や保護者の関わり方について学ぶ
- ②日時 10月9日(土) 14時～16時
- ③会場 庄内少年文化館 多目的ホール
- ④内容 演題「子どもの理解を深めるために」～医療の現場から～
- ⑤講師 こども心身医療研究所・親と子の診療所 臨床心理士・公認心理師
- ⑥参加者数 16名

○創造活動保護者全体懇談会

第1回	<p>目的： 創造活動での現状を伝える。不登校について理解するため、今の子どもの状態を客観的に知り、今後の子どもへの対応や保護者の関わり方について学ぶ。</p> <p>日時： 7月24日(土) 10時～11時30分</p> <p>会場： 庄内少年文化館 3階 多目的ホール</p> <p>主な内容： ①挨拶 (館長) ②自己紹介 (創造スタッフと保護者) ③創造活動報告 (創造スタッフ) ④講話 講師 少年文化館アドバイザー テーマ「子どものこころに寄り添って」～ゆっくり・じっくり・ていねいに～ ⑤アンケート記入</p> <p>参加者数： 22人</p>
第2回	<p>目的： 家庭での子どもの様子、保護者の悩みや困り感などを交流し、今後の子どもへの対応や、親としての関わり方について学び合う。</p> <p>日時： 11月6日(土) 10時～12時</p> <p>会場： 庄内少年文化館 3階 多目的ホール</p> <p>主な内容： ①挨拶 (創造スタッフ) ②アイスブレイク (少年文化館アドバイザー) ③講演 第1回保護者全体懇談会アンケートへの回答 (少年文化館アドバイザー) ④グループ別交流 [自己紹介・子どものようす・スマホの使い方] ⑤各グループのまとめ (創造スタッフ) と全体まとめ (少年文化館アドバイザー) ⑥アンケート記入</p> <p>参加者数： 18人</p>
第3回	<p>目的： 家庭での子どもの様子、保護者の悩みや困り感などを交流し、今後の子どもへの対応や、親としての関わり方について学び合う。</p> <p>日時： 1月29日(土) 10時～12時</p> <p>会場： 庄内少年文化館 3階 多目的ホール</p> <p>主な内容： ①挨拶 ②アイスブレイク (少年文化館アドバイザー) ③講演 第2回保護者全体懇談会アンケートへの回答 (少年文化館アドバイザー) ⑤グループ別交流 [自己紹介・前回要望のあったテーマ] ⑥各グループのまとめ (創造スタッフ) と全体まとめ (少年文化館アドバイザー) ⑦アンケート記入</p> <p>参加者数： 29人</p>

○保護者懇談・担任懇談・継続相談・創造活動だより配布などの取組み

<保護者全体懇談>各学期に1回実施し、それぞれ22人、18人、29人の参加があった。1回目は新型コロナウイルス感染拡大防止のため講演会形式にし、不登校についての理解を深め、家庭での役割を確認した。2回目、3回目は、3～4つのグループに分かれ、子どものようすを交流し、保護者としての子どもとの向き合い方を考えた。

<保護者個人懇談>1学期末（6月26日～7月17日）と2学期末（11月16日～12月18日）には個人懇談を実施した。児童生徒の状況を伝え、家庭での変化のようすを聞いた。今後の援助等について確認があった。

<担任懇談>7月・11月・12月児童生徒の担任や関係教職員と懇談した。新たな情報が得られたり、見方の違いを認識した後、共通理解が得られたり、連携して援助することに役立った。

<継続相談>児童生徒への援助以外に、保護者との面談を継続的、あるいは必要に応じて行なった。親の不安や心配を受け止めることで、親が安定し、児童生徒の安定につながった。

<創造活動だより>5月、6月、10月、12月、2月に創造活動だよりを発行した。時節に合わせたコラムと行事のようすを中心に載せた。児童生徒の家庭と所属の学校(担任)を含めて市内全小中学校に配布した。